※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 45

【様式２】

エントリー学校名：

宮城県涌谷町立月将館小学校

活動名： 学校家庭地域 All 月将館
～どの児童も安心できる学校づくり～

解決すべき課題：

1　児童の実態から【全校児童数　平成 30 年度：168 名，平成 31 年度（令和元年度）：164 名】
・（様々な課題や特性を持った）支援を要する児童の割合が年々増えている。
・真面目できまりを守って過ごしている児童への更なる関わりや賞賛，励まし，目標設定が必要である。

2　教職員の実態から
・意欲的であり，校内での協働や組織対応の意識が整っている。小規模校ならではの校務分掌の重なりにより，多忙感がある。

目標・方針：

1　校長の学校経営理念の下，学校・家庭・地域等を**「All 月将館小学校」**ととらえ，**「安心のための３本柱」**により**「どの児童も安心できる学校づくり」**に取り組み，教育目標と目指す児童像にせまる。

2　学校の実態と願い，平成 29 年度までの重点を基にして，平成 30 年度から**「どの児童も安心できる学校づくり」**に取り組み，PDCA サイクルで改善をしながら継続を図る。

活動内容：All 月将館小！「安心のための３本柱」（平成 30 年度～継続中）※PDCA サイクルで改善

柱１：個に応じた支援（生徒指導・特別支援教育等）の３段階対応・連携

柱２：児童，保護者とともに行う学力向上（「学校生活の記録（通信表）」の見直し，年２回の三者面談による情報共有，単元テストの廃止と年２回の標準学力検査の実施　等）

柱３：保護者・地域等との連携（地域ボランティアや外部講師の活用　等）

活動の成果：All 月将館小！「安心のための３本柱」により・・・

（児童の姿，保護者の声，教職員の声，教職員の意識調査から）

①　学校だけで抱え込まず，積極的に家庭，地域，外部機関等との連携を図ることができた。一人一人に適切な対応ができるようになり，学びの充実や安心感につながった。

②　児童と保護者が，学習面や生活面における児童本人の頑張りや課題をより具体的にとらえることができるようになった。自分のめあてを明確に持って頑張る児童の姿が増えており，教職員と保護者が共有した認識で児童の頑張りを認める声掛けや励まし，指導，支援ができるようになった。

➡ **「どの児童も安心できる学校づくり」**

アピールポイント（アイディアや工夫）：All 月将館小！「安心のための３本柱」は・・・

☆　誰かが「見守ってくれている」「関わってくれている」ことによりどの児童にも安心感を持たせることができる取組

☆　教育目標と目指す児童像に直結する取組

☆　学校・家庭・地域等が連携して共に児童を育てる意識を高めるとともに役割や連携の道筋が明確な取組（それぞれの立場の意識改革，相互理解，教職員の働き方改革）

➡ **「どの児童も安心できる学校づくり」**

【目指す学校像】
○子どもが喜んで通う学校
○保護者が安心して通わせる学校
○教職員がやりがいをもって教育活動に取り組む学校

【教育目標】
めあてをもち共に努力する子どもの育成
【目指す児童像】
○心のやさしい子ども
○進んで考える子ども
○健やかな子ども

【目指す教師像】
○信頼される教師
○自立する教師
○向上心のある教師

（働き方改革）

先生はもちろん，身近な地域の方々もいろいろな場面で関わってくれている！

新たな目標が持てた！

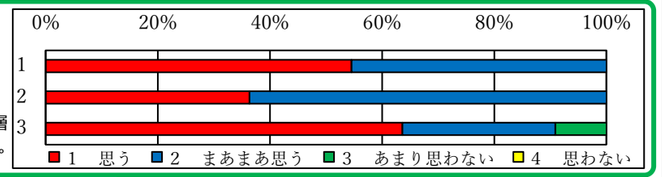
安心

学校での頑張りも，今後の課題も，おうちの人は一緒に考えてくれている！

みんな（集団）の中にいても誰かが自分を見ていてくれる！

【教職員の意識調査】(この取組以前との比較)　令和2年2月末回答
対象：教諭9名，養護教諭1名，講師1名　計11名実施

1　児童がより安心して過ごすことができる学校になってきたと思いますか。
2　児童が自分のめあてをより明確に持って頑張ることができるようになってきたと思いますか。
3　保護者の方や地域の方，外部講師と連携した活動をより一層取り入れたことは，児童の学びや安心に役に立ったと思いますか。



個に応じた支援（生徒指導・特別支援教育等）の３段階対応・連携

【一次・日常的な予防】
各担任と LD 等通級教室担当，特別支援教育コーディネーター，生徒指導主任，７年部との連携，情報交換，教育相談活動の充実による全児童に対する予防的対応

【二次・早期発見，早期対応】
生徒指導上の問題，特別支援教育の観点等から問題や相談が発生
→困っている児童の問題が重大になる前に素早く対応（その日のことはその日のうちに）
①「報告・連絡・相談カード」の活用により，早期発見したことを素早く共有
②役割分担をして素早く組織的対応

【三次・重大になり得る問題対応】
素早い問題解決が難しい場合，ケース会議を開いて役割分担や組織的対応の再検討
①校内の関係職員によるケース会議
→職員全体の共通理解・共通行動
②町教委や SC，SSW，町の福祉課，医療機関などの外部機関との連携

All 月将館小！「安心のための３本柱」

児童，保護者とともに行う学力向上
（前期，後期，１年間の流れ）

１【４月上旬】前期始業式　　【１０月上旬】後期始業式
・児童が学習面と生活面に関する自分のめあてを立てる

２【４月中旬】実態把握　　【１２月上旬】変容把握
・標準学力検査実施（年２回）※６年生１回目は全国学力・学習状況調査

３【７月下旬（夏休み中）】三者面談　　【２月中旬】三者面談
・標準学力検査の結果配付
・児童,保護者,担任とで,学習面と生活面における頑張りと今後の課題の共有

４【１０月上旬】前期終業式　　【３月中旬】修了式
・児童が学習面と生活面に関する自分のめあてを振り返る
・「学校生活の記録（通信表）」の配付と月将館小版キャリアパスポートの活用
→「学習の様子」と「生活の様子」についての総括的評価
（A「よくできた」 B「できた」 C「もうすこし」）
→所見欄の記入は年度末１回のみ　（その代わりに年２回の三者面談実施）

５【年間】
・月将館小版キャリアパスポートへの記入（児童自身による PDCA）
・単元テストの廃止（その代わりに標準学力検査を年２回実施）
※丸付けやテスト直しの時間を学習として確保できる
・ノートやプリント，教科書のまとめのページ等を用いてその都度評価
→評価したことを基に，個別指導や指導改善に生かす
・形成的評価→児童，保護者，担任とで共有→生かす

保護者・地域等との連携

１　地域ボランティアルームの整備
・「いつでも，気軽に，学校へ」

２　地域コーディネーター会議の開催
・定期的に連携について話合い
・校長，地域連携担当対応

３　地域ボランティアの活用
・あえてボランティア登録せず，その都度募集
・教科，行事，図書館整備等
・清掃，消毒作業等

４　外部講師による地域の伝統芸能継承

５　外部講師による合唱指導

６　校長作成のお便りの発行・広報
・学校，家庭，地域等の連携・協働

願い　困り感のある児童はもちろん，**どの児童にとっても安心して過ごすことができる学校をつくりたい！**